

2023

May

305号



はるあけび

●医療法人創和会広報誌はるあけび / 発行 医療法人創和会 理事長 重井文博
令和5年5月1日発行

しげい病院2023年度の事業方針 ～安心して楽しくやりがいを持って 働ける職場を目指して～

しげい病院 院長 有元 克彦

昨年度をふり返ると、やはりコロナに振り回された1年間であったと思います。県の依頼を受けてコロナ感染透析患者を受け入れつつ、5回の院内クラスターを経験しました。幸いこの危機的状況は何とか乗り切ることができました。皆さんが、それぞれの部署で全力を尽くして対応してくださったからこそと、心から感謝しています。

ただ、クラスター発生の影響で病床稼働には回復の兆しが見えない状況です。そんな中で5月8日からコロナの5類移行が決定し、先行きに不安を感じる新年度のスタートとなりました。5類移行後も、9月いっぱいには透析患者さん専用のコロナ病床を確保するように依頼されていますが、10月以降は3階北エリア17床の行方は宙に浮いている状況です。本館3階病棟は地域包括ケア病棟として再スタートしましたが、休床の17床をどう運用していくかも稼働回復の鍵になると思います。

いずれにせよ、病院目標と事業計画達成のためには、病床の稼働回復や透析患者さんの受入等で



安定した経営を維持することが前提となります。皆さんの協力をよろしくお願いいたします。

前置きはこれくらいにして、2023年度病院目標についてポイントを紹介します。病院ビジョンに挙げたのが「社会医療法人化」と「医療DX推進」です。

新見クリニックと成羽病院に医師を派遣して僻地医療を支援した結果、2024年度の社会医療法人化がはっきりと見えてきました。幸町記念病院との正式合併が実現し、公的な存在としての社会貢献だけでなく、今まで不可能だった営利事業展開が可能となります。

「医療DX推進」のポイントは、業務をデジタル化するだけでなく、デジタル化による新しい価値や働き方を創造していくことにあります。Garoon活用、電子カルテのバージョンアップ、新たな業務システム導入、スタッフコール・ネットワーク整備、一人一台のスマートフォン環境構築などが構想にあがっています。

年間重点課題には2項目が追加されました。ま

ず「エネルギーコスト・CO₂ 排出削減の推進」です。経営を圧迫するレベルまでエネルギーコストが上昇しており、コスト削減は待ったなしの課題です。

そして「病院機能評価受審準備」です。次々回の診療報酬改訂で回リハ病棟入院料1の算定基準に機能評価認定が必須になるとされています。リハビリを診療の柱と位置づけるしがい病院にとって機能評価受審は避けて通れません。リハビリに限らず、診療の質を問われるのが機能評価です。診療の質を客観的に評価していただき更にステッ

プアップするために機能評価受審に向けて準備します。日常業務で忙しい中、大きな負担をかけることになり心苦しいですが、避けては通れない道です。ご協力お願いいたします。

とりとめなく病院目標を羅列してきましたが、私が最も大切にしたいことは職員の皆さんが安心して楽しくやりがいを持って働ける職場を提供することです。それぞれの立場で、小さなことから、できることから、少しずつ、手をたずさえて目標に向かって進んでいきましょう。

看護師特定行為研修を受講しました

研究所附属病院 看護部 副主任 豊岡 泰衣

「看護師の特定行為」とは、従来は医師の判断に基づき実施してきた医療行為のうち38の診療補助を指しています。

特定行為研修を受けた看護師は、医師があらかじめ作成した手順書に基づいて、医師の判断を待たずにこれらの診療補助を実施できます。この研修制度は、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け今後の医療を支えるために、さらなる看護ケアの充実が視野に入れられたものです。研究所附属病院では、2018年度に三澤課長と松崎課長が研修を終え、現場で求められている特定行為を実施しています。

今回、2022年度新たに研修を終えた豊岡副主任の研修受講の感想を紹介します。

私は2022年度に学校法人川崎学園で看護師特定行為研修「創傷・ろう孔管理コース」を受講いたしました。

共通科目では、臨床推論やフィジカルアセスメントなど医師の視点、医学的な思考について学びました。自分は今まで経験値だけのパターン化した看護の提供を行っていたことを痛感し、未熟さを実感する研修でした。現状の患者状態をアセスメントすることのみならず、予測できる能力、そして判断し、自分の思考を論理的に医師や多職種へ伝える能力が必要であることを学びました。医学的な視点を持ち、治療と看護の両方の側面から患者さんやご家族と関わり、看護師としての問題解決や意思決定支援に取り組んでいきたいと考えています。

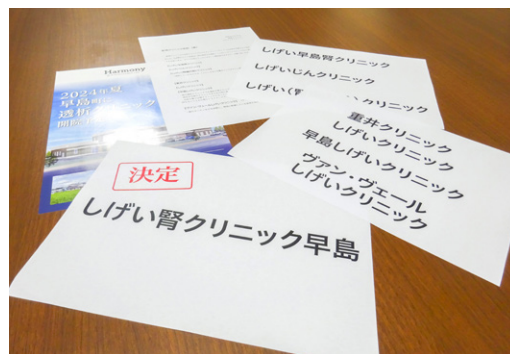
また、医療の高度化に加え患者さんを取り巻く状況や個人の価値観も多様であり、質が高く安全

な医療を提供することや患者さんが望む生活を支えるためには、チーム医療の推進が不可欠です。「チーム」という状態ではなく、「チーミング」として捉え、動的な活動が行えるよう、多職種とのコミュニケーションを積極的にとり、プロセスを重視した連携を図っていきたいと思います。



創和会初のクリニックは 「しげい腎クリニック早島」 に決定!!

研究所附属病院 事務次長 田中 昭彦



▲様々な候補の中から決定!!

2023年2月発行のはあもにい302号の巻頭で重井理事長から発表のありました、創和会初めてのクリニックの名称が「しげい腎クリニック早島」と決定しました。クリニック開院プロジェクトメンバーで複数の名称案を検討し、透析診療を提供するクリニックに“しげい”という名称は外せない。地名は入れた方が患者さんにも分かりやすい。などの意見を加えて提案し決定しました。

2024年初夏の開院へ向けての進捗状況ですが、4月19日には、取得した土地の開発許可が下り、造成工事がスタートしています。造成工事にあたり、予定地南側の納所先生はじめ近隣にお住まいの方へは工事前の家屋調査のお願いや挨拶回りな

どに伺い工事がスムーズに始められるように準備を進めています。

建物に関しては、間取りはほぼ決定し、カウンターの高さや手洗いの場所の決定など細かい部分の打合せを重ねています。加えて、省エネ・創エネのプロジェクトも専門家を加えたメンバーで打合せを重ねています。

今後は、診療に必要な医療機器の選定や診療の柱となる透析装置の決定など、建物以外のハード面の準備に加え、クリニック運営に関するソフト面の準備なども必要となります。今後も開院に向けてプロジェクトメンバー一丸となって取り組んでいきます。



▲「しげい腎クリニック早島」の外観イメージパース



▲造成工事がスタートしました



▲造成工事前（上段）と4月24日時点（下段）の様子

新入職員研修を実施

～今年もたくさんの新入職員を迎えました～

■しげい病院

医療支援部 総務課 比津 守弘

4月3日（月）～26日（水）まで新入職員研修が行われました。

新たな研修の取り組みとして毎週1回1日の研修を1か月かけて完走する研修となりました。そのために幾度もの日程調整も快く引き受けていただいた講師の皆さま、ご協力ありがとうございました。

今年度は新入職員も多く、感染対策を講じた研修をすすめる中で、一部研修では2部体制をとり、未実施になる研修は別機会にフォローアップ研修を行う予定です。

入職する職員の大多数は学生時代には対面授業からオンライン授業に授業スタイルが変更になっており、一部の新入職員からは「周りの人との繋がりを作ることが難しかった」との声がきかれま

した。そういった繋がりをしっかりもてる機会をつくれるよう、今後も引き続き研修に取り組んでいきたいと思っています。

新入職員の皆さん、これから業務を遂行していく中で、成功することも失敗することもあると思います。分からないことがあればいつでも、頼れる先輩や上司が優しく教えてくれるので、一人で抱え込まず、すぐに報告・連絡・相談をしてください。

失敗＝ダメではなく、失敗＝改善すべき点と捉えることで、失敗もポジティブに捉えられるのではないのでしょうか？失敗を恐れ過ぎてしまうと、失敗が恐くて行動できなくなってしまいます。

新入職員の皆さんはドンドン行動していきましょう！



▲入職式での新入職員代表の挨拶



▲感染対策の研修



▲電子カルテの研修

4月1日（土）、今年も新入職員研修総勢 27 名が入職しました。

入職式後はすぐに新入職員研修です。コロナ禍で行われる 4 度目の研修ですが、昨年度から再開した院外施設見学プログラムの内、見送っていたしげい病院内の見学も復活しました。しげい病院では森上看護部長自ら院内をご案内いただき、とても有意義な見学になりました。

今年の新入職員はとても明るく研修プログラムを担当した各スタッフからも「皆さんの雰囲気

よく、リアクションが大きいので教えていて安心する」などの声が聞かれました。

研修 2 日目には新入職員研修の担当者が新型コロナウイルスに感染し研修から離脱するハプニングもありましたが、新人さんたちが再度気を引き締めるきっかけになりました。

この研修を土台に、将来の創和会をますます発展させる原動力となる職員に成長することを大いに期待します。



▲辞令交付



▲新入職員代表の挨拶



▲アイスブレイク



▲ストレッチャー移乗



▲体位変換



▲認知症サポーター研修

しげい病院の3職種の 制服が新しくなりました!!

事務職

Change & Challenge プロジェクトの一つ「職員制服一新」で事務職の制服を変更しました。以前はオーバーブラウスとベスト&スカート/キュ

ロットの組み合わせから選択していましたが、選択する組み合わせによって

はデザインテイストが異なり、統一感にかけるところがありました。

そこで今回は「機能性」「着やすさ」「統一感」「時代に合ったもの(多様性)」をテーマに新しい制服を選定しました。機能性については適度なストレッチ素材で動きやすく肌触りも良好なものを。爽やか&上品なジャケットがあること、多様性を担保するためにスカート・キュロット・パンツを自由に選択可能でデザインテイストも共通のものを探しました。インナー(シャツ・カットソー)はアイロン不要になって楽になり助かっています。

新しい制服で気分一新、来院される方にとっても気持ちのよい対応を心がけていこうと思います。(甲佐 彩)



▲新しい制服を着て、事務職・臨床検査技師・
診療放射線技師で記念撮影♪

臨床検査技師

4月より検査健診部は、ユニフォームを一新いたしました。昨年度、しげい病院の新プロジェクト Change & Challenge が発表された時から、「どんなユニフォームになるのか、いつ変わるのか」とわくわくしていました。6月には部署内のミーティングで「譲れないポイント」の意見を出し、みんなのこだわりポイントを書き出しました。また、検査健診部は十数名の部署なので男女で同じデザインのユニフォームを着てチーム感を出そうということになりました。

しかし、検査健診部は皆さんシャイなので、斬新なデザインで人目を引くのは恥ずかしい…ということで、上衣は皆に似合う白、ズボンは元の水色イメージを残したターコイズブルーとなりました。新しいユニフォームはハイパーストレッチ素材で、軽くて柔らかいので動きやすさ抜群です。そして同じLサイズでも少しゆったりしていて、「わたし痩せた?」と感じる気分の良さ。ズボンの色が濃くなったため、「シュッと見えて」と言われ、ますます良い気分。コロナ禍で世の中みんな我慢の日々を送ってきましたが、ユニフォームを一新し、心機一転、業務へのモチベーションも向上です。

今回、ユニフォーム更新に合わせてオーバーコートも購入していただきました。分析装置がたくさんある検体検査では、冬でも暖房を入れることができず底冷えします。また、発熱外来の検体受け取りでは屋外の駐車場に行っていますので、とにかく寒い。今回4wayストレッチ素材のオーバーコートを選び、動きやすさだけでなく地厚で温度調節に適しています。

ユニフォーム更新の動画を撮影し、しげい病院の Instagram、Facebook、YouTube Shorts にアップしていますので、ぜひご覧ください! (佐藤 麻里恵)



診療放射線技師

放射線部の新ユニフォームは上衣が黒、ズボンが紺色です。アクセントとして青縞基調のラインが入っており、ダークカラーで落ち着いた印象のある雰囲気ながらも明るい印象を演出する爽やかなデザインです。

制服選びで最も重視し、そして苦労したのは機能性でした。特にポケットの配置。我々放射線部は、放射線を計測するバッジを常に身につけます。胸やお腹であれば大抵ポケットがあるので困りません。が、首元にもひとつ装備する必要があります。旧制服はなんとも都合の良い位置に手頃なポケットがあり、重宝しました。しかし同じ製品は廃版。首元にポケットのある制服を皆で手分けして探すも、結果はあえなく全滅。デザインは良い!けれど…という思いを幾度となく繰り返し、ようやくこれだ!という制服を見つけ皆で喜んだのもつかの間。またもや廃版でした。

紆余曲折を経て、最終的に選んだのが今回の制服です。放射線部の需要を満たす機能性、着心地のよい生地感が魅力的です。ユニフォームの雰囲気は落ち着いていますが、部内の雰囲気は以前と変わらず活気に溢れており、モチベーション高く業務に励んでいます。新しくなった放射線部を、これからもよろしくお祈いします。(小川 雄偉)

ようこそ、研究所附属病院の ガーデニングスポットへ♪

研究所附属病院 事務部 総務課 大塚 弘之

花の便りが相次ぐ今日この頃、病院から研究所へつながる渡り廊下周辺では桜の花が咲き誇り、新しく来られた新入職員を迎えています。また渡り廊下周辺は、研究所附属病院のシンボルの一つでもあるネムノキなどの樹木が四季折々で様々な顔を見せてくれます。

そんな木々に囲まれた渡り廊下の横にガーデニングスポットがあるのをご存じでしょうか？

この春には、チューリップが咲き、さらにアネモネ、パンジー、雛菊、ローダンセマムなどを追加で植えて色とりどりの花を咲かせてくれています。

今後もこのスポットに季節の花を咲かせて行きたいと思いますので、ぜひ皆さんも可憐な花々を楽しんでいただけたらと思います。



2023年度 はあもにい編集委員

今年度から幸町記念病院の2名も編集委員に加わりました。

今年の広報誌のテーマは「交流」。

創和会グループの様々な出来事&交流を、毎月皆さんにお届けする予定です。お楽しみに!!



しげい病院

地域連携部
IT 推進・情報管理室

佐伯 博子
松田 圭市

幸町記念病院

事務部 矢吹 静香
事務部 大賀 一希

(残念ながら写真撮影の日はお休みでした)

研究所附属病院

事務部 井上 有紀
事務部 栗原 玲音

倉敷しげい居宅介護支援事業所

渡邊 隆太

重井医学研究所

分子遺伝部門 北村 真優美

催し物案内

重井薬用植物園

植物園を楽しむ会

「絡み咲く花々を楽しむ」

日時：5月14日(日)

10:00～12:00

会場：重井薬用植物園



編集後記

●皆さん、こんにちは、新しく編集員になりました。WBCで一躍有名になったスーパースター選手のお母さま・久美子さんの子育て4方針として「挨拶をする」「目上の人を敬う」「時間を守る」「やると決めたことは最後までやり遂げる」があげられています。いずれも大切ですが、今回は「挨拶」についてふれます。挨拶の「挨」は押す、「拶」は押し返すとの意味があり、本来は禅僧の「知識考案」における「受け答え」をさす語で、それが一般にも通用するに至ったとの説があります。コミュニケーションとして肝心な最初の第一歩としての「挨拶」、新年度を迎え新たな気持ちで Let's say hello!! (SH)

●はあもにい編集委員を務めて早いもので5年が経ちました。年数だけ経って技術が追いついていないのですが、今後も読みごたえのある広報誌はあもにい作成を目指して精進してまいりますのでよろしくお祈りします。昨年度の編集後記で「今年の目標はダイエットすることだ」と書いたのですが、結果達成できず。昨年度は「入職当時の体型に戻すぞ」と意気込んでいたのですが、今年度は何キロマイナスとは決めずに少しでも体重を落とすことを目標に設定したいと思います。まずは夏の健康診断で注意をうけないように食事から気を付けていこうと思います。年度末の編集後記ではいい報告ができるように頑張ります。(KM)

「やればできる」

ジャパン EAP システムズ EAP 相談室

皆さんは、何か目標を立てて動き出したものの、途中でくじけてしまった経験はありませんか。その一方で、世の中にはどんな状況でも前を向き、努力を重ねて成功する人もいます。では、両者の違いは一体何でしょうか。今回は、目標を達成するためのポイントを「自己効力感」「現実的楽観性」という観点から考えてみましょう。

自己効力感とは、目標を達成する能力を自らが持っていることを指し「結果予期」と「効力予期」の2種類に分けられます。

○結果予期：「この行動を起こせば、望んだ結果が得られるだろう」という期待

(例：この大会で優勝すれば、オリンピックに出場できるだろう)

○効力予期：「望んだ結果を生み出す行動を、上手く実行することができる」という期待

(例：自分ならこの大会で優勝することができる)

自己効力感とは成功した体験だけでなく、他者からほめられる体験、自分をほめることによって高めることができ、研究では「自己効力感が高いほど課題を達成する確率も高くなる」ことが指摘されています。

一方で、楽観とは、「物事の先行きを良い方に考えて心配しないこと」を指します。目標を達成するためにも「やればできる」と自分を信じることは大切です。ただ、何の努力もせず楽観的に考えているだけでは良い結果は訪れません(安易に成功できると信じることを「非現実的楽観性」と言います)。

一方、「やればできる」と信じることに同時に、「成功のために努力が必要だ」と考えることを「現実的楽観性」と言います。そもそも楽観 (optimism) という言葉は、ラテン語の「optimus (最善)」に由来します。つまり、単にポジティブに考えるというより、どんな試練や逆境にあっても「最善」の結果が得られるように現実に対して働きかける意味が含まれているのです。

目標を達成するには、困難な状況であっても「やればできる」と捉えてみることで、そして自分の置かれた状況を客観的に振り返り、今できる行動を整理して最善の結果が出られるよう努力を重ねることが大切なのかもしれませんね。

まずは自分を信じ、できることから最初の一步を踏み出してみましょう。



※医療法人創和会は職員の心の相談窓口として、ジャパン EAP システムズと契約しています。相談はお気軽に、電話やメールで。



医療法人創和会

生きることの尊さと健康であることの幸せを、すべての人と共に

しげい病院

〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)3655 FAX086(421)1991

岡山しげい訪問看護ステーション

岡山しげい居宅介護支援事業所
〒710-0202 岡山市南区山田2117
TEL086(282)4300 FAX086(282)4301

重井医学研究所附属病院

〒707-0202 岡山市南区山田2117
TEL086(282)5311 FAX086(282)5345

倉敷しげい訪問看護ステーション

倉敷しげい居宅介護支援事業所
〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)8111 FAX086(421)1991

重井薬用植物園

〒710-0007 倉敷市浅原20
TEL086(423)2396

重井医学研究所

〒707-0202 岡山市南区山田2117
TEL086(282)3113 FAX086(282)3115

倉敷昆虫館

〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)8207